

令和7年度 福祉保健活動拠点事業計画書・報告書

施設名

横浜市金沢区福祉保健活動拠点

事業計画・実績

1 場の提供について

(1) 場の提供を通じた関係性の構築・利用団体支援

- | | |
|----|--|
| 計画 | <p>①日常的な施設利用を通じて利用団体の活動を支援するとともに、関係性を構築します。また、拠点イベントの協働や利用調整会議等を通じて団体間の良好な交流関係性の構築へ繋がります。</p> <p>②利用調整会議や窓口満足度調査等で利用団体から挙げた意見・課題には迅速に対応し、利用団体が心地よく利用できる環境整備に取り組みます。</p> <p>③高齢者や障がい者等が利用する際は、それぞれの特性に配慮した対応を行います。</p> <p>④各部屋の換気や消毒等感染症およびその他感染症の拡大防止に留意した施設運営を実施し、施設利用者の感染予防に努めます。</p> |
| 実績 | <p>①利用調整会議では、昨年度に引き続き団体交流会を行い、団体間の関係性構築を行いました。</p> <p>②利用調整会議や窓口満足度調査で出された意見・要望に関しては、泥亀地域ケアプラザとも相談の上、必要なものは実現に向けて取り組みました。また、貸館抽選については職員による代理抽選を継続しているため、意見・要望は個別に窓口でも受け付けています。利用登録団体からは拠点の不具合等についても随時ご意見をいただき、都度、修繕等の環境整備や団体間の調整に努めました。</p> <p>③ご利用者に応じてゆっくり分かりやすく説明することを心がけるとともに、障害のある方には連絡方法を工夫（FAX、e-mail）するなど、利用者の特性に合わせた対応を行いました。利用調整会議では手話通訳等が行えるよう準備・調整を行いました。</p> <p>④感染症予防のため、館内入口及び各室に消毒液を設置するとともに、共有部分は常時換気を行いました。また、部屋利用の際は換気・手指消毒等のチェックリストを記入していただくことを継続しました。</p> |

(2) 拠点の利用促進に関すること

- | | |
|----|--|
| 計画 | <p>①区社協広報誌「福祉かなざわ」（3回/年）・ボランティアセンター通信の発行、HPやLINEの活用、利用調整会議（2回/年）の開催を通じて広報を行い、利用を促進します。</p> <p>②拠点貸室において、備品を計画的に更新して利便性を高めるとともに、抽選外となった団体に代替の部屋を案内する等、全室の稼働率の向上に努めます。</p> <p>③複合福祉施設の利点を活かし、各施設が相互に連携し、団体の施設利用状況等の情報交換を行います。</p> <p>④地域における身近な居場所づくりを促進するため、こども食堂・地域食堂の開催場所の提供を通じて、子育て世代や子育て支援団体への支援を行います。</p> <p>⑤1階交流ラウンジを活用し、利用団体や近隣学校の作品等の展示を行い、地域の方同士の交流や福祉保健活動拠点の利用促進に繋がります。また、区社協および共同募金運動等関連事業の広報を行います。</p> <p>⑥引き続きホームページで利用のてびきや申請書類をダウンロードできるようにするほか、施設利用に係る臨時情報等をタイムリーに提供します。</p> <p>⑦Wi-Fiの利用について団体に周知を行い、活動に役立てていただきます。</p> |
|----|--|

実績

- ①区社協ホームページにおいて利用案内を掲載（手引きや申請書のダウンロードも可能）するとともに、拠点の不具合や工事による停電等、臨時の項目については、随時お知らせとして情報を更新しました。
- ②備品についての意見・要望について、更新する必要があると判断したものについては更新しました。また、貸室抽選では、第三希望まで伺い、一般予約の際にも希望する部屋が空いていない場合には定員の近い他の部屋を提案する等、より多くの団体に利用いただけるよう努めました。
- ③センター連絡会（月１回）で施設の効率的な運営や利便性の向上、修繕、合同事業等に係る検討を行い、複合福祉施設の利点を活かす取組につなげることができました。
- ④こども食堂・地域食堂は定期的開催され、食事の提供にとどまらない、地域における居場所・繋がりや、新たな担い手の参加機会としての機能も発揮されています。
- ⑤１階交流ラウンジは、障がい児・者の作品展示やスライドショー、赤い羽根共同募金の周知動画の放映、区内小学校個別支援学級児童の作品展等で活用され、作品等の観覧を目的に来館される方も多数おり、拠点の周知・利用促進や区民の交流につなげることができました。
- ⑦館内のwi-fiの利用に関して、利用のてびき等で周知を行っており、リモートの研修会や交流会、PCを用いた活動などで利用されています。

平日	目標（利用件数）			目標（利用率）		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
団体交流室	165	350	60	68	100	25
多目的研修室	165	220	145	68	90	60
点字製作室	85	60	12	35	25	5
録音室	85	73	12	35	30	5
対面朗読室	145	145	25	60	60	10
	実績（利用件数）			実績（利用率）		
団体交流室	135	392	34	56	100	14
多目的研修室	161	194	145	67	80	60
点字製作室	70	59	0	29	24	0
録音室	28	39	0	12	16	0
対面朗読室	120	111	2	50	46	1

土日祝	目標（利用件数）			目標（利用率）		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
団体交流室	73	110	19	60	90	50
多目的研修室	73	117	6	60	95	15
点字製作室	12	12	2	10	10	0.5
録音室	12	12	2	10	10	0.5
対面朗読室	25	50	2	20	40	0.5
	実績（利用件数）			実績（利用率）		
団体交流室	61	76	11	59	70	29
多目的研修室	67	92	6	65	82	16
点字製作室	9	7	0	7	6	0
録音室	2	3	0	3	3	0
対面朗読室	33	46	3	29	45	8

(3) 拠点のサービスの向上に関すること

計画	<p>①利用のてびきを利用者・団体に丁寧に説明を行うことで同じルールに基づいてご利用いただけるようにします。</p> <p>②職員間で統一した対応を行うため、窓口業務のマニュアルを作成・共有します。</p> <p>③職員会議（１回/月）、拠点担当者ミーティング（４回/年）を通じて、拠点運営に関する職員間の情報交換を行います。問題点や引継事項、ヒヤリハット等は毎日の朝礼・終礼（各１回/日）で共有します。</p> <p>④危険物および緊急時対応を日頃から想定し、職員による定期的な見回りを行う等、拠点の環境整備を行います。</p> <p>⑤窓口満足度調査（１回/年）を実施します。アンケート方式にて職員対応や施設の利便性向上等の客観的な意見を集め、アンケート結果に基づき「改善宣言」としてまとめ、掲示板等に張り出し、施設利用の改善に取組みます。</p> <p>⑥施設利用に関する要望や意見に関しては「ご意見箱」の活用に加え、個別に窓口、電話にて受付します。</p>
実績	<p>①利用のてびきはもとより、泥亀地域ケアプラザとの共同で「施設利用の留意事項について」を作成・運用しており、施設の利用方法に変更が生じた際にはその都度改訂し、利用調整会議等を通じて全登録団体へお知らせし、団体間への情報周知を徹底しています。</p> <p>②窓口事務のマニュアルを作成・共有し、窓口・電話対応の迅速化、効率化に努めました。</p> <p>③毎日の事務所朝礼・終礼、毎月の職員会議等を通じて拠点業務対応方法の変更内容や課題・ヒヤリハットの共有を行いました。拠点担当者ミーティングでは、日常の窓口業務における必要事項の確認や団体からの意見等について共有し、より良い対応について検討しました。</p> <p>④職員による見回りによる定期点検を行うとともに、こまめな清掃や備品チェックを通じて安全な施設運営、美観維持に努めました。</p> <p>⑤窓口満足度調査は11～12月に実施し、改善事項を検討のうえ、改善宣言としてまとめました。</p> <p>⑥ご意見箱には「拠点内の椅子にシミがあるため、対応いただきたい」とのご意見をいただき、対応しました。また、窓口・電話にて受け付けたご意見やご要望にも都度対応し、必要に応じて職員間で共有しました。</p>

(4) 利用調整会議等の開催

計画	<p>①利用調整会議（２回/年）では、団体の意見交換や団体間の交流、利用団体が必要としている情報提供および関連講座等を開催し、施設利用に関する留意事項等の情報提供を行います。</p> <p>②貸室抽選会、ロッカー・メールボックス抽選会は利用者の利便性向上のため、団体からの抽選申込書の提出を受け、職員による代理抽選を行います。</p>
実績	<p>①第１回利用調整会議（８月開催）は昨年度に引き続き、２部制集合型開催としました。第１部は警察署による道路交通法改正に伴う交通ルール講座を開催。第２部では貸室利用にあたっての注意事項の確認や意見交換を行いました。第２回利用調整会議（２月開催）では、利用団体へテーマを募集し、団体交流会を開催しました。利用団体へは、無理のない範囲での参加を呼びかけ、欠席団体には伝達事項や当日の報告を書面にまとめ、郵送することで情報を周知し、要望や意見は「ご意見箱」を活用するとともに窓口等で個別に受け付けて対応を行いました。</p> <p>②貸室抽選会、ロッカー・メールボックス抽選会は職員による代理抽選を継続し、問題なく実施できました。</p>

昨年度開催実績	今年度開催実績
８月、２月	８月、２月
昨年度参加団体数	今年度参加団体数
計78団体	計79団体

2 ボランティア業務

(1) ボランティアに関する情報収集、分析、計画立案

計画

- ①地域支援や移動情報センター等の担当職員と密に連携を取り事業を進めます。また、本会主催の会議や連絡会（子ども食堂・地域食堂連絡会、生活支援コーディネーター・地域活動交流コーディネーター連絡会他）をはじめとしたネットワークを活用することにより、区内の幅広いニーズ把握・解決と情報共有に努めます。
- ②ボランティアセンターに寄せられた相談内容や、地域活動団体との連携・情報交換により把握したニーズを職員間で共有し、業務間で連携しつつ解決に努めます。また、ボランティアセンター登録者及びこれからボランティア活動を始めたい方に向けた研修会を開催します。
- ③地域ケアプラザや区役所との連携により、高齢社会（地域包括ケアシステム）に対応するため、区域を対象とした社会資源の開発を行います。
- ④ボランティアセンターの適正な運営をはかるため、ボランティアセンター運営委員会を年2回開催します。運営委員会では寄せられた相談内容やニーズの分析結果報告を行うとともに、事業計画等について報告します。
- ⑤ボランティア活動を財源面で支援するため、金沢ふれあい助成金の紹介や民間助成金の助成支援を行います。

実績

- ①ボランティアセンター、移動情報センターの各担当コーディネーターが情報共有・連携しやすいよう席を配置し、相談しやすい環境の中でコーディネートを行いました。ボランティア登録者とボランティアニーズは月に1度の担当者会議で共有し、地区ごとの傾向を分析しつつ、各事業担当職員や地区担当職員と連携しながら対応しました。
- ②相談対応やコーディネートにあたっては、必要に応じて区社協各事業（地域支援事業や生活支援体制整備事業等）と連携をとりながら進めました。
- ③各連絡会に向けて担当職員からボランティアセンターの情報提供を行った結果、ボランティアニーズが寄せられるようになり、区内団体へのボランティアのコーディネートに繋がりました。また、個々のケースについては月に1度の担当者ミーティングで進捗確認・課題の共有・対応検討を行いました。
- ④ボランティアセンター運営委員会年2回実施し、委員の皆様にはボランティアセンター各事業や次年度の活動計画を報告しました。
- ⑤ボランティア活動を財源面で支援するため、金沢ふれあい助成金の紹介や民間助成金の助成支援（情報提供、推薦書作成）を行いました。

(2) ボランティアに関する広報、情報提供

計画

- ①広く地域住民にボランティア関連情報を周知するため、広報紙「ボランティアセンター通信」「かなボラだより」を地域ケアプラザ等の公共施設で配架します。
- ②広報紙や講座情報周知にあたっては、区社協ホームページや区社協LINEを活用し、幅広い世代に情報提供するよう努めます。
- ③拠点内にボランティア募集コーナーを設け、来館者へボランティア情報を提供します。

実績

- ①・「ボランティアセンター通信第19号」「かなボラだよりNo2」をそれぞれ10月に発行しました。区内公共施設に配架を依頼した結果、「ボランティアセンター通信を見た」という学生のボランティア登録に繋がった事例や、「かなボラだよりを読んだ」という問い合わせから掲載団体への参加に繋がった事例もありました。

(3) ボランティアに関する相談、紹介

計画 ①ボランティア活動に関する各種相談・情報提供及びコーディネートを適切に行います。また、研修会に積極的に参加し、コーディネーターのスキルアップに努めます。
 ②地区担当職員と連携しながら、必要に応じて地域ケアプラザや区役所等の関係機関やの地区社協・民児協等へと繋ぎ、課題解決を図ります。また、幅広いコーディネート・情報提供・課題提起を行うことで、地域の方々が、地域の課題を我が事と捉え、課題解決のために何が地域に必要なかを考えるきっかけ作りを支援します。
 ③区社協ボランティア・市民活動団体分科会や金沢ふれあい助成金受配団体と連携したボランティア調整を行い、ボランティア活動先及び新たな地域人材を開拓します。
 ④新規ボランティア登録者・既登録者を対象とした「ボランティアサロン」を開催し、ボランティアの相談、交流の場を設けます。

実績 ①・ボランティア活動に関する各種相談に応じるため、コーディネーターを中心に情報収集を行ったほか、各業務・地区担当職員と共有し、幅広いコーディネートに努めました。
 ・コーディネートの幅を広げるため、担当職員及びコーディネーターは区内団体が主催する講習会等にも積極的に参加しました。
 ②・施設からのボランティアニーズについて、該当地区の地区ボラセンと情報共有を行いました。結果、施設のある地域で活躍するボランティアさんをコーディネートすることができました。
 ・移動情報センターで対応できないケースをボランティアセンターで対応したり、ボラセン登録者からガイドボランティアを新たに見出したりと、移動情報センターと密な連携をとっています。
 ・地域ケアプラザ等で実施される活動を見学することで、区内ボランティア活動について実態把握に努めました。参加者の声からニーズを拾う機会にもなり、「毛糸や布が不足して困っている」という編み物ボランティア団体に対しての善意銀行の配分の検討に繋がりました。
 ③区内団体と積極的に意見交換を行い、ボランティア紹介先の開拓に努めました。
 ④・「ボランティアサロン」を開催し、ボランティア活動に関心がある方がボランティアコーディネーター、ボランティア経験者、ボランティア団体に気軽に相談できる場を提供しました。

登録人数（目標）	個人	新規	50
		累計	400
	団体	新規	5
		累計	45
相談件数			500
依頼件数			100
紹介人数			50
調整数			200
登録人数（実績）	個人	新規	50
		累計	387
	団体	新規	7
		累計	46
相談件数			2,285
依頼件数			98
紹介人数			42
調整数			692

(4) ボランティアに関する育成・支援・講座開催	
計画	<p>①新たなボランティア登録者等を対象に活動意欲を高め、実際の活動へつなげることを目的に「ボランティアサロン」を開催します。</p> <p>②ボランティアセンターに寄せられる相談や区社協他事業から得られたニーズを分析し、必要とされているボランティア活動者の育成を進めます。</p> <p>③区社協地区担当職員や、1層および2層生活支援コーディネーター等と協力しながら、地区ボランティアセンターの立ち上げ支援や運営支援を行います。また、各地区ボランティアセンターとの連携体制を構築します。</p> <p>④ボランティア活動団体の支援を目的に、必要な情報提供や講座開催支援等を行います。</p> <p>⑤地域を理解する福祉教育プログラムの提供を通じて、長期的な視点に立った人材育成を進めます。</p>
実績	<p>①・『ボランティアサロン』を年4回開催。情報提供や交流の機会を設け、これからボランティアに臨む方がボランティアの基礎知識について学べる・ボランティアの経験者体験談を聞くことができる場を提供しました。一人ひとりの参加者との対話・フォローアップを行い、顔の見える関係での人材育成・個に合わせた支援ができています。ボランティア団体がそれぞれの活動をPRできる場にもなっており、実際の参加にも繋がっています。</p> <p>②・ボランティア・市民活動団体分科会を通じて担い手不足や活動を縮小化せざるを得ない状況を把握しており、昨年度に引き続きボランティア周知活動に力を入れました。ホームページや公式LINEにて団体活動やボランティア募集について発信したほか、拠点内に設置した掲示板等を活用し、区内団体のチラシも積極的に掲示・配架しました。</p> <p>・「かなざわっこ中学生ボランティア」事業に講師として協力し、学生ボランティアの育成・支援・獲得に努めました。</p> <p>・活動意欲向上を目的に地域のボランティアグループ『一心たすけの会』に講師として出張講座を行いました。</p> <p>③・地区によるボランティアコーディネート機能がある地域からのニーズは、地区担当職員と地区ボラセンとの情報共有を行っています。</p> <p>④・ボランティア活動をする中で様々な方と接することが想定されることを踏まえ、『多様性を理解する講座「『色弱』とカラーユニバーサルデザイン」』を11月に開催。ボランティア技術ではなく、「多様性」の理解に焦点を当てた講座の開催は初の試みでしたが、参加者からは好評でした。</p> <p>⑤小・中学校の福祉教育において、地域を理解するプログラムを提案・実施しました。</p>

3 他の関連組織とのネットワーク

(1) 関連組織及び地域との連携	
計画	<p>①「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」という社協の活動理念に基づき、地域の活動団体・組織、ボランティア、民生委員児童委員、NPO、民間企業、区内学校、社会福祉法人等が重層的に連携・協働した取組を進めます。</p> <p>②区社協の部会・分科会、各種連絡会等の開催を通じて構築したネットワークを活用し、地域課題の把握と解決に努めます。</p>
実績	<p>①・食を通じた支援として、地区民生委員児童委員協議会との共催により、ひとり親世帯向け食支援を実施しました。</p> <p>・区内こども食堂、地域食堂の活動支援として、助成金交付や支援物資の提供等を行いました。</p> <p>・福祉意識の醸成を目的に、地区社協、地域ケアプラザ等と連携し、区内小・中・高等学校に向けて福祉教育事業を実施しました。</p> <p>②・区内大学及び地域ケアプラザと連携し、大学生向けボランティア実践講座を実施しました。</p> <p>・『金沢区ママ』からのボランティアニーズをすくい上げ、対応ボランティアコーディネートを行いました。</p> <p>・基幹相談支援センターと意見交換会を設け、多岐にわたって情報共有・課題検討を行いました。</p> <p>・『金沢区自助連絡協議会』からの福祉機器貸出依頼及び講義依頼について、自立支援協議会啓発部会と情報共有・連携し、地域のイベントにてPR活動を行いました。</p>

(2) 地域の福祉保健課題への理解と協力	
計画	<p>①利用調整会議や、区社協部会・分科会を通じて、地域の福祉保健課題の把握と理解およびその解決と協力を得るため、福祉保健の啓発とその課題解決を図ります。</p> <p>②地域福祉保健計画の協働事務局として、また地域支援チームの一員として、区役所・地域ケアプラザとともに、区域計画・地区別計画の推進に協力します。</p> <p>③的確な地域支援のため地区毎のアセスメントシートを随時更新し、地域課題を分析します。</p> <p>④ボランティア・市民活動分科会では、「ボランティアセンターとの連携」「助成金助成団体との連動」などをすすめ、ボランティア活動の活性化を目指します。</p>
実績	<p>①・当事者団体部会では、「災害時における当事者及び家族に寄り添った支援」をテーマに支援機関等に参加対象を拡大して議論を行いました。（6月：区職員による災害対策の説明、12月：まちの減災ナース活動報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい理解・啓発のため、自立支援協議会啓発部会と連携し、拠点一階交流ラウンジにて『みんなのギャラリー』を開催しました。 ・放課後等デイサービスからの「地域との繋がりが無い」という課題に対して、区社協のネットワークを活用することで地域住民やその他の社会資源とつながりました。コラボ企画をはじめ、新たな関係性の構築となりました。 ・『ヤングケアラズフェスティバル』に協力し、区役所や民生委員・児童委員をはじめ、多くの関係機関にイベント情報の周知を図りました。 ・医大生からの地域貢献を目的とした講座実施先に関する相談について、地域ケアプラザへ情報共有しました。 <p>②区役所・地域ケアプラザと協働し、金沢ささえあいプラン第4期計画の推進と第5期計画の策定に取り組みました。</p> <p>③地区ごとのアセスメントシートを更新し、地区の状況把握を行うとともに、見守り体制の充実に向けて地区民生委員児童委員協議会定例会に新規参加するなど、目的をもって地域に関わりました。</p> <p>④ボランティア・市民活動団体分科会の複数団体から聞かれた課題認識（利用者・活動者における認知症の増）を踏まえ、認知症サポーター養成講座を開催しました。</p>

4 その他

(1) 職員体制、育成	
計画	<p>①朝礼・終礼（各1回/日）や職員会議（1回/月）の実施と、拠点ミーティング（4回/年）やボランティアセンターミーティング（1回/月）を実施することで、拠点内の業務の見直しや確認を行い、業務の適正化、効率化を図ります。</p> <p>②他区の事例を含めたヒヤリハット・事故等を共有し、職員の意識向上による安全性の高い拠点運営に努めます。</p> <p>③情報共有システムや業務・窓口日誌等を活用し、日常の情報提供・報告事項や引継事項を漏れなく、滞りなく行います。</p> <p>④コンプライアンスや個人情報に関する研修を実施し、職員の認識の強化に努めます。</p> <p>⑤窓口対応の質の向上を目的とし、職員研修を実施します。</p> <p>⑥人材の育成に関しては、常勤職員は人材育成計画、非常勤職員は業務評価シートを基に実施し、必要に応じて個別指導の機会を設け、スキルアップを図ります。</p>
実績	<p>①各種対応において、適切で統一された対応ができるよう、毎日の朝礼・終礼や職員会議で情報共有や対応事項の共有を行いました。拠点ミーティング（4回/年）では、利用団体に関する情報共有や窓口業務の適正化・効率化に向けた意見交換を行いました。</p> <p>②毎月定例の職員会議では他区のヒヤリハット・事故事例を共有し、所内での対応状況を確認し、事故防止に努めました。</p> <p>③朝礼・終礼での申し送りのほか、窓口日誌や情報共有システム等を活用し、朝礼・終礼に参加できない職員にも情報を共有しました。</p> <p>④コンプライアンス・個人情報保護に関する研修は毎年実施しています。</p> <p>⑤人材育成計画、研修計画、人事考課制度をもとに日常的なコミュニケーション、定期面談、研修機会の提供等を通じて育成を行いました。</p>

5 施設の適正な管理・運営について

ア 施設の維持管理について

<開館時間>

平日・土曜 9:00 ~ 21:00

日曜・祝日 9:00 ~ 17:00

※年間347日開館（1月1日～3日及び12月29日～31日、毎月最終土曜日（年間12日）を除く。）

<建物・設備の保守点検、小破修繕>

- ・ 駐車場ゲート保守管理業務：3回／年
- ・ 真空式温水器保守点検業務：2回／年
- ・ エレベーター保守点検業務：1回／月
- ・ 自動ドア保守点検業務：4回／年
- ・ 自家用電気工作物点検業務：月次点検、年次点検
- ・ 空調用自動制御装置保守点検業務：2回・6回／年
- ・ 冷温水発生器及び空調機器保守点検業務：1回・2回・6回／年
- ・ 消防用設備点検業務：2回／年
- ・ 端末設備保守点検業務：6回／年
- ・ 設備総合巡視点検業務：4回／年

<清掃業務について>

- ・ 日常清掃：毎日（開館日）
- ・ 定期清掃：指定日

<警備業務について>

- ・ 機械警備（開館日夜間・休館日、緊急時・異常事態発生時）

<衛生管理業務について>

- ・ 空調環境測定業務：4回／年
- ・ 配水管洗浄業務：1回／年
- ・ 受水槽清掃業務・飲料水水質検査業務：1回／年

<植栽保守業務について>

2回／年

イ 苦情受付体制について

<苦情受付体制・方法>

金沢区社協「苦情解決規則」並びに「苦情解決規則に基づく苦情相談対応マニュアル」に沿って、苦情受付の体制を整えています。

また、ご意見箱設置要綱に基づき、苦情だけでなく、利用者からの意見・要望等を受け付けています。

ウ 緊急時（災害・事件・事故等）の体制及び対応について

<連絡体制、マニュアルの整備状況等>

浸水想定区域に指定されているいきいきセンター金沢において「避難確保計画」を策定しています。あらゆる災害において、緊急時に迅速且つ適切な対応・連絡体制作りを行うとともに、警報発令等、災害発生のおそれがある場合に備え、予め参集・待機の体制を整えています。

<職員の役割分担>

火災等の場合には、予め定められている自衛消防隊組織図に基づき、役割分担を行い、対応します。

大規模災害発災時には、「災害時における区ボランティア活動拠点開設の協力に関する協定」に基づき、速やかに「区災害ボランティアセンター」が設置できるよう協力するとともに、区災害ボランティアネットワーク等と連携し、ボランティア調整等の活動支援を行います。また、区社協業務計画（ＢＣＰ）に基づく災害時の職員配置を含めた体制の整備を継続して進めます。

<地域や関係機関との連携体制>

いきいきセンター金沢連絡会議や、行政との打合せ等を通じて、関係機関との連携を図っています。また、指定管理者たる金沢区社協が、災害ボランティアネットワークの事務局を担っていることから、これらとの連携を活かして、万が一の災害に備えています。

<事故防止への取組>

日常業務の中でヒヤリ・ハット事例を共有するとともに、他区の福祉保健活動拠点等で発生した事故事例を収集し事故原因の分析を行います。また、全職員による学習会を定期的に開催することで日頃より事故防止に努めていきます。

いきいきセンター全館合同防災訓練を年２回実施し、当日利用者参加の下、火災・地震・津波等を想定し、発災時に備えます。

エ 個人情報保護の体制及び取組について

<マニュアルの整備状況>

「横浜市個人情報保護に関する条例」並びに「金沢区社協の保有する個人情報の保護に関する規程」、及び「金沢区社協の保有する特定個人情報取扱要綱」に基づき、個人情報の保護に努めます。

<職員への周知>

横浜市社協が実施する研修に参加するとともに、職員会議等を通じて、意識啓発を行うことで、個人情報に関する理解の定着を図ります。

オ 環境への配慮及び取組について

<再利用・再使用・リサイクルに関する取組>

ヨコハマ３Ｒ夢プランに基づき、環境に配慮した行動を心がけるとともに、利用者にも環境への配慮を呼びかけます。

- ・廃棄物については、ごみゼロ推進員を選出し、資源の分別を徹底します。
- ・文書・備品廃棄については定めに従い処分します。
- ・拠点利用者には、ゴミの持ち帰りを呼びかけ、館内のゴミ箱を撤廃します。

<温室効果ガス排出抑制に関する取組（グリーン購入、室温設定等）>

クールビズ・ウォームビズを実施し、空調設備の設定温度（夏期28度、冬期20度）を調整するとともに、各部屋に設定温度を掲示し、利用者にも協力を依頼しています。

令和7年度 横浜市金沢区福祉保健活動拠点 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	17,982,106	498,924	18,481,030	18,481,030	0	横浜市より
内 受領額	17,982,106	498,924	18,481,030	18,481,030	0	
戻入額					0	
自主事業収入（指定管理料充当の自主事業）			0		0	
雑入	180,000	0	180,000	97,400	82,600	
内 印刷代	180,000		180,000	97,400	82,600	
自動販売機手数料			0		0	
その他			0		0	
その他			0		0	
収入合計	18,162,106	498,924	18,661,030	18,578,430	82,600	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,907,000	141,000	11,048,000	11,537,312	△ 489,312	
給与・賃金	10,104,000	141,000	10,245,000	10,321,851	△ 76,851	
社会保険料	435,000		435,000	709,591	△ 274,591	
通勤手当	162,000		162,000	288,300	△ 126,300	
健康診断費			0	8,670	△ 8,670	
勤労者福祉共済掛金	6,000		6,000	6,000	0	
退職給付引当金繰入額	200,000		200,000	202,900	△ 2,900	
事務費	2,555,000	0	2,555,000	2,411,399	143,601	
旅費	5,000		5,000	13,374	△ 8,374	
消耗品費	177,000		177,000	564,405	△ 387,405	
会議随い費	97,000		97,000	21,856	75,144	
印刷製本費			0	0	0	
通信費	219,000		219,000	302,552	△ 83,552	
使用料及び賃借料	36,000	0	36,000	22,591	13,409	
内 自販機目的外使用料（横浜市への支出）			0	0	0	
その他	36,000		36,000	22,591	13,409	
備品購入費	720,000		720,000	138,600	581,400	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険	15,000		15,000	6,860	8,140	
職員等研修費	3,000		3,000	0	3,000	
振込手数料	33,000		33,000	27,115	5,885	
リース料	111,000		111,000	110,000	1,000	
手数料			0	0	0	
地域協力費			0	0	0	
公租公課	0	0	0	814,744	△ 814,744	
内 事業所税			0	0	0	
消費税			0	814,744	△ 814,744	
印紙税			0	0	0	
その他			0	0	0	
その他	1,139,000		1,139,000	389,302	749,698	
事業費	340,000	0	340,000	132,447	207,553	
自主事業費（指定管理料充当の自主事業）	340,000		340,000	132,447	207,553	
管理費	4,178,000	357,924	4,535,924	4,497,272	38,652	
光熱水費	1,685,000		1,685,000	1,462,535	222,465	
清掃費	858,000		858,000	968,756	△ 110,756	
修繕費	300,000	154,924	454,924	454,924	0	
機械警備費	98,000		98,000	97,614	386	
設備保全費	1,237,000	0	1,237,000	1,433,186	△ 196,186	
内 空調衛生設備保守			0	430,742	△ 430,742	
消防設備保守			0	170,228	△ 170,228	
電気設備保守			0	103,725	△ 103,725	
害虫駆除清掃保守	27,000		27,000	26,180	820	
駐車場設備保全費			0	0	0	
その他保全費	1,210,000		1,210,000	702,311	507,689	
共益費			0	0	0	
その他		203,000	203,000	80,257	122,743	
その他	182,106		182,106		182,106	
支出合計	18,162,106	498,924	18,661,030	18,578,430	82,600	
差引	0	0	0	0	0	

自主事業費 収入	0	0	0	0	0	
自主事業費 支出	340,000	0	340,000	132,447	207,553	
自主事業 収支	△ 340,000	0	△ 340,000	△ 132,447	△ 207,553	

管理許可・目的外使用許可に関わる収入	0	0	0	0	0	目的外使用許可(自販機)による手数料収入
管理許可・目的外使用許可に関わる支出	0	0	0	0	0	目的外使用許可(自販機)による横浜市への支出
管理許可・目的外使用許可に関わる収支	0	0	0	0	0	

※各大項目の内訳については、「その他」欄に集約して記載している場合もあります。